

地域農業教育の充実に



大川記念農業教育基金協会（佐藤龍海会長）は3月24日、平川市役所で農業等図書費寄贈を行いました。

同協会は、旧JA津軽平賀の組合長として長年活動してきた故・大川豊氏が、地域農業の活性化のため、今後の農業後継者やJA役職員の教育事業に活用してほしいと自身の退任慰労金を寄贈したことをきっかけに発足しました。

佐藤会長が目録を工藤貴弘市長に渡し、工藤市長は感謝状を贈るとともに、長年の寄贈に感謝の意を表しました。



目録を受取った工藤市長（左）



園地の被害を確認する奈良組合長（右）と吹田定義営農購買担当常務（左）

園地の被害状況を確認



当JAは3月17日、雪によるりんご園地の被害状況を確認するための巡回を行いました。1月に豪雪対策本部を本店に設置しており、今回の巡回は被害状況などを把握し、雪害に対する支援策を講じることが目的です。

この日は常勤役員と営農課の職員が、黒石地区を中心に被害があった管内の園地を巡回。雪の重みによる枝折れや、幹が裂ける被害が多く見られました。

奈良寧組合長は「今後も被害調査を行い、生産者が安心して農業を続けられるよう支援の充実を進めていく」と話しました。

尾上水稻生産組織連絡協議会研修会



尾上水稻生産組織連絡協議会（佐藤晃一会長）は3月30日、平川市のさるか荘で研修会を開き、生産者約20人が出席しました。

研修会では尾上グリーンセンターの営農指導員が、「10年後の水田農業意向調査票集計結果について」「平川市関係機関連絡会議での協議内容の情報共有について」「尾上地区管内の基盤整備事業の動向について」の3項目を説明し、現在の地域農業の課題や農地の集約化、基盤整備の強化などを確認しました。



職員の説明を聞く生産者